

草加あおはる食堂

【活動テーマ】食を通した子どもおよび地域住民の居場所づくり

【訪問日】令和3年（2021年）7月24日（土）

【場所】草加市立川柳文化センター

【事業名】子ども食堂

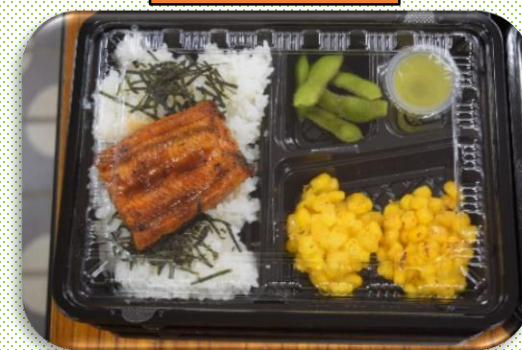
【活動報告】毎月第4土曜日に川柳文化センターで、地域の子どものや住民の居場所づくりを目的に、子ども食堂を行っています。

本来、食事ができるまでの間は、宿題、おしゃべり、自由遊びなどを通して、スタッフと利用者同士の関係を育む場を設けるところですが、コロナ禍の影響が続く中で、テイクアウトのお弁当を渡すのみになっています。

訪問した日も夏休みイベントとして、年度当初は、スイカ割りや花火をする計画でしたが、イベントができない代わりに、豪華なうな丼のほか、できたてのポップコーン、市販の漬物やお米、さらにはジャガイモまで、盛り沢山のお土産を用意して、一人ひとりが手にして皆さん大喜びでした。

令和3年度
草加市ふるさとまちづくり応援基金助成団体
(はじめよう部門)

当日のお弁当



お弁当調理



受付



ジャガイモ選び



第13回 草加あおはる食堂 7月24日

夏休みも元気にスクスク応援キャンペーン
ポップコーンやお土産もりだくさん

130食限定



メニュー 丑の日スペシャル
うな丼

お申し込み
お問合せQR



草加市ふるさとまちづくり応援基金助成事業

参加費 大人 300円
小・中・高校生 100円

場所 川柳文化センター
受付16時45分予定
お渡し 17時予定

どなたでも参加できます。食品アレルギーには対応できません。
お申し込み・お問合せは上記QRから。小中学生だけで来る人はおうちの人に、あおはる行くよと言ってから来てね。

草加あおはる食堂

LINEお知らせ

草加ローカルプロジェクト

【活動テーマ】 地域の人と人をつなげる活動

【訪問日】 令和3年8月25日（日）

【場所】 市民活動センター

【事業名】 ワークショップ・リソグラフィ部

【活動報告】 市民活動センターにあるリソグラフィを活用し、草加の街の看板文字（タイポ）から版をつくり、ベタ文字の印刷を小物などにあしらひ、街の良さを発見する試み。

令和3年度
草加市ふるさとまちづくり応援基金助成団体
(はじめよう部門)



第1回は、タイポの作品集の綴りを作成し、この日の第2回は、タイポ柄のポーチを作りました。

2人1組で赤文字版と黒文字版を分担して作成し、まずはリソグラフィで様々な色彩の色上質紙へ刷分け。次に型紙に沿ってタイポ柄を断裁し、両面テープで保護用ビニールシートと貼り合わせ、ファスナーを取り付けて完成。

「これはどこのお店の看板?」「あそこのおせんべい、風味が良くて飽きないんだよね」など、まちの話題を通して新たな発見が生まれます。自分だけのオリジナル作品を作りながら、交流が生まれ、ついでにまちを知る。無理なく地域の魅力を知る、新しい手法がここにありました。



なお、秋に予定しているマルシェ準備イベントやマルシェで作品を展示し、参加者や市民が交流を深める企画も予定したいとのこと。交流の輪が広がる予感がありました。



MEGママの子ども食堂

【活動テーマ】地域の子供たちを応援しよう

【訪問日】令和3年7月11日（日）

【活動場所】ママズキッチンMEG

【事業名】子ども食堂

【活動報告】ママズキッチンMEGの駐車場とお店を会場に、毎月第2日曜日に子ども食堂を開き、地域住民の交流や子どもが集まれる場づくりに取り組んでいます。

他の子ども食堂同様、おいしくて栄養のある食事をほおぼりながら、子ども同士・親子のおしゃべりや遊びでゆっくりくつろいでもらいたいのですが、感染症が落ち着くまでは、お弁当の持ち帰りで辛抱です。

この日は、小学生が受付をお手伝い。近所のお母さんがバルーンの剣を作って手渡し、駐車場の輪投げコーナーでは、輪を入れたらお菓子のご褒美がもらえました。お店の中では、マスターが1人1人に声掛けしながら、お弁当の手渡し。メニューは、グリーンピースごはん、サクサク・ほくほくの鮭コロケ、ウインナーとうもろこしのバター炒め、お菓子の詰合せ。地域で子ども達を育てたい、との言葉通りの空間がありました。

令和3年度
草加市ふるさとまちづくり応援基金 助成団体
(はじめよう部門)



令和3年度 草加市ふるさとまちづくり応援基金 助成団体
(そだてよう部門)

友隣会

【活動テーマ】友和と学習、まちづくり

【訪問日】令和3年9月11日(土)

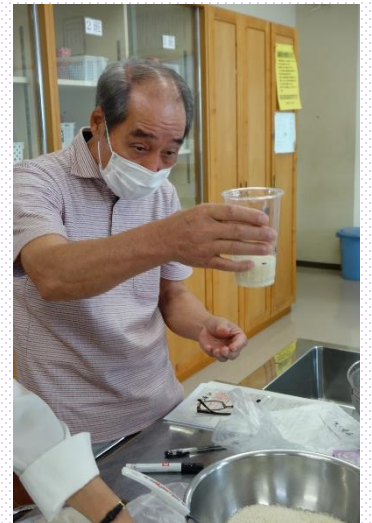
【活動場所】谷塚文化センター

【事業名】おとなのやってみ隊-体験教室シリーズ第1回

【活動報告】新規の体験を通して谷塚中央地区の友和・交流を図り、顔の見える関係をつくる、谷塚文化センターとの共催事業「おとなのやってみ隊」を4回シリーズで開催。第1回目は獨協大学教授でアウトドアクリエイターの和田智氏を講師に、炊飯器が無くても調理可能な防災用炊飯袋(ハイゼックス)を使った、無洗米・アルファ米を炊く体験をしました。

講師からは、限られた道具(袋)を使った炊飯の説明に加えて、自然の中で交流し学ぶことの大切さが語られます。炊飯の待ち時間は、和田ゼミの学生を中心に参加者との講話・交流タイム。人生の先輩が語る様々な体験や実践に学生が耳を傾け、また若者としての意見を述べ、世代を超えてお互いを知る充実した時間を持ってました。

友隣会は、企画打ち合わせ、交流タイム司会、体験語り・質問にと積極的に関わり、事業の一翼を担いました。



特定非営利活動法人 やさしいくらし企画

【活動テーマ】子どもとママの笑顔のために この街で育つしあわせを届けたい

【訪問日】令和3年11月6日(土)

【活動場所】「Ton ton's toy～ちいさな木のおへや～」(草加市八幡町935-4 シェアアトリエつなぐば 201号) ※当日の会場は八幡西公園

【事業名】『おそとでtonton×てくところ』

【活動報告】近隣住宅へも事前通知のポスティングをした上で、当日は午前10時～12時と午後1時～3時に分けて、八幡西公園を会場に開催されました。一家族500円の参加費は自助努力の一環です。

地域の子育て支援活動として、紙芝居など昔遊び体験を中心に構成されています。公園の真向かいにある「シェアアトリエつなぐば」の2階が活動拠点なので、そちらも開放されていました。

大学生のサークル「てくところ」も協力し、段ボール迷路作りや昔遊び(紙芝居・けん玉・コマ・シャボン玉・竹馬…)の相手など、一緒に盛り上げていました。

木のおもちゃや、廃材でのおもちゃ手作り体験など、SDGsな取り組みにもなっていました。

